

.....

その奇異な体験は、B747貨物機でサンフランシスコからアンカレッジまで、西海岸に沿って北上していた時のことです。副操縦士と航空機関士、それに私の3人だけで、深夜のサンフランシスコ空港を離陸して、巡航高度31000ftに向けて上昇しておりました。

ベイエリア（サンフランシスコ沿岸）住民の眠りを妨げないように、滑走路20を使用して離陸し、左旋回して北上しました。私が操縦桿を握って、高度20000ftを通過する頃でした。オー克蘭ドセントターの管制指示はたまにしか来なくなり、乗員同士の会話も無く、気象状態も良好な闇夜を静かに上昇しておりました。

突然、真つ暗な機外の左前方がサーチライトを受けたように輝いたので、私は身体を前に乗り出して左方向を見ました。すると巨大な……

.....

.....

出発地のユバルデから50kmほど進んだあたりで、先頭集団はやっとサーマル旋回を始めたので、私もその集団の下について旋回を開始しました。高度は6000ftになっておりました。ところが先頭集団の掴んだサーマルは意外にも弱く、集団の一番下で私は少々もがいておりました。

しばらくすると、次の集団が近付きつつあるのが目に入りました。見ると私より低いところを3機のグライダーが並列に、すごいスピードで近づいて来るのを私は視認しました。その3機のうち、私に最も近かったグライダーの垂直尾翼にコンテストナンバーがAWと鮮やかに描かれていたのが、何故か記憶に残りました。しかし私は右旋回していたので3機のグライダーは直ぐに私の機の胴体の下に隠れてしまい、3機がその後どう飛行したのか分かりませんでした。

そんなことを気にするよりサーマル旋回に集中しなければならぬと気を取り直した時でした。背筋に一瞬ゾツとする何かを感じました。その直後に強烈な衝撃を受けて、目前が暗くなり私は……

.....